

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学附属中学校 教諭 今西 昇平

1. 単元名 1、2年合同奈良めぐり

2. 単元の目標

・奈良県にある建築物について、その所在地や建造された時期や建造された目的・歴史的背景などを知り、建築当時の技術でどのような工夫がなされているのかを理解することができる。
(知識・技能)

・フィールドワークや調べ学習で得た情報をもとに、建築に関わる知識や受け継がれている技術についてスライドやレポートにまとめ、他のグループに発表・説明をすることができる。
(思考・判断・表現)

・奈良県に古くから存在する建築物に興味を持ち、それらの歴史的建造物を残すことの意義やこれからの未来に伝えていきたい技術などについて、自ら進んで探究しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

奈良県には、法隆寺や東大寺・春日大社など重要文化財として登録されている日本の歴史において大変貴重な建造物が非常に多く存在している。それらの建造物は、当時の歴史的背景より大きな影響を受け、時の権力者や有名な歴史上の人物によって建立され、今なお風化することなくその姿を見ることができる。

これらの建造物は、世界遺産にも登録され、日本のみならず世界的にもその価値が認められている。8世紀に中国大陆や朝鮮半島から伝播して日本に定着し、日本で独自の発展をとげた仏教建築群は、当時の日本の建築技術が非常に高度で、芸術的価値も高いことが分かる。このような建造物をフィールドワークで実際に見学したり、話を聞いたりすることで学び、これからの未来に残していきたい技術や思いについて考えさせたい。

(2) 生徒観

奈良教育大学附属中学校の生徒の多くは、奈良県・京都府在住で日頃から歴史的建造物を身近に感じながら生まれ育っている。国語科や社会科などの教科の授業の中でも、奈良県に関わる世界遺産について学んでおり、その存在を意識する機会が多い。しかし、中学生という学齢期であることから、正倉院展や博物館、寺社仏閣に興味を持っている生徒は少なく、その魅力に気づけているとは言えない部分がある。

そのような生徒たちに、建築という新たな視点からそれらの建造物と触れ合い、工学的な知識とともに古くからある技術の中にも非常に優れたものがある事実などに気づき、興味や関心を深めてほしいと思う。

(3) 指導観

本単元は、総合学習の時間の「1、2年合同奈良めぐり」の新規コースとして立案計画する。そのため第1次には、どの建造物へのフィールドワークを実施するのか、またその建造物の歴史・成り立ち・当時の建築技術など、どの視点から学習を進めていくのかなど、生徒自身が自らの興味や関心のあるものの調べ学習を通して計画を立てる

第2次は、フィールドワークを行い、実際の建造物を訪れることで現地の方から知識や情報を得て、感じたことや気づいたことを記録するフェーズとし、第3次には、後輩や同級生にそれらを共有するための発表を行うための準備を行う。そして、第4次としてプレゼン・発表を行うという方向で進めていく。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

○ 相互性

建造物が残されていることと同時に、その修復や修繕を行う中で継承されてきた建築技術。

○ 有限性

歴史的に重要な建造物が、1300年以上の長きにわたって残っている。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

○ コミュニケーション力

自らの意見をまとめ・発表し、なかまの意見を聞いて考える。

○ つながりを尊重する態度

これまで受け継がれてきた建築技術を、先を見通してこれからの世代に受け継ぐ。

○ 進んで参加する態度

フィールドワークを行うことで、実際の建造物を見たり、現地の方にインタビューを行うことなどから意欲的に関わりをもとうとしたり、学びを深めたりしようとする。

・本学習を通して変容を促すESDの価値観

○ 自然環境・生態系保全の重視

建築技術の中には、その建造物の周囲の自然環境を考慮することで、自然災害に適応するための工夫がなされており、そこに住む人々の命を守る技術が含まれていることを感じ取る。

○ 人権・文化の尊重

長きにわたり残されてきた歴史的建造物の存在意義を学ぶことで、それぞれの時代の文化を知ることができており、人々がその時代をどのように生きてきたのかを感じる。そして、今の時代もまた、次の時代へと繋がっていることを知り、今の文化をどのように残していきたいか考える。

・達成が期待されるSDGs

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①奈良県の建築物について、その歴史的背景や建築技術に関する情報を正確に調べ、理解している。	①フィールドワークや調査活動を通じて得た情報をもとに、自分たちの意見を組み立て、発表することができる。	①自分の興味や関心を明確にし、積極的に調査活動に参加している。
②調査結果をわかりやすくスライドやレポートにまとめることができる。	②他者の意見を聞き、その内容を自分の学びに取り入れる柔軟な姿勢がある。	②自ら進んで質問をし、発表準備に取り組む姿勢が見られる。

5. 単元の指導計画（全9時間）

	主な学習活動	学習への支援	評価備考
1	奈良県にある歴史的建造物、いくつ知っている？ ・この写真の建造物は〇〇だな。 ・この建造物がつくられたのは〇〇時代。 ・この建造物をつくった目的は〇〇。	○写真の建造物をきっかけにクロームブックを使って、奈良には他にどんな歴史的建造物があるのかを調べさせる。	ア－①
2	フィールドワークの計画① ・自分たちが見に行きたい建造物を決める。 ・建造物について、どのようなことを知りたいのか、学ぶ上での視点を考え、テーマを作成する。 ・学びたいテーマごとにグループに分かれる。	○各グループのテーマの設定をサポートする。	ウ－①
3	フィールドワークの計画② ・奈良めぐりのタイムスケジュールを考える ・地域の方や観光に訪れている方にインタビューする内容を考える。	○各グループの調査の視点を具体化するためのサポートをする。 ○インタビュー内容やタイムスケジュール作成の指導をする。	ウ－②

4	奈良めぐり（フィールドワーク） ・グループに分かれて、実際の建造物を見学する。 ・地域の方にインタビューをする。 ・観光客にインタビューをする。 ・建築技術の実際を確認し、写真に撮って記録する。	○現地での観察・記録方法やインタビュー方法について具体的な指示やアドバイスをする。	アー① ウー①
5	フィールドワークで学んだことをまとめる。 ・グループで得た知識や情報を共有し、感じたことや発表で伝えたいことをまとめる。		イー①
6	プレゼンテーションの準備 ・グループごとに発表する原稿を考える。 ・原稿をもとにスライドを作成する。 ・プレゼンテーションのリハーサルを行う。	○発表のリハーサルに対してアドバイスをし、プレゼン技術の向上をサポートする。	アー② ウー②
7	プレゼンテーション① ・グループごとに発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、感じたことをまとめる。	○発表の対象は、同学年の他のグループ。 ○フィードバックのために、お互いの発表の感想をワークシートにまとめさせる。	イー①
8	プレゼンテーションの改善 ・ロールプレイングを繰り返しながら、原稿を修正したり、役割分担を見直したりする。	○発表のリハーサルに対してアドバイスをし、プレゼン技術の向上をサポートする。	イー② ウー①
9	プレゼンテーション② ・グループごとに発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、感じたことをまとめる。	○発表の対象は、第1学年とする。	イー①